



問 学校給食における総括的な取り組みは
答 安全供給に向けた体制づくりを検討

問 学校給食の食材
安全確認体制の
取り組みは。

教育課長 学校給食会では、毎月1回の検査が実施され、その実施結果が報告され、安全性が確認されている。また、納入業者よりの購入食材のかまぼこ等の練り製品及び食肉に関しては食材検査の結果報告を頂いており、豆腐等の大豆加工品に関しては、納入業者より従業員の細菌検査の結果報告を頂き安全性を確認できている。なお、給食センター独自の取り組みとしては、毎年1回、食材検査を実施し安全の確認を図っている。

地産地消の取り組み方向については、食材品目ごとに行えるだけ地元でとれた食材を学校給食に取り入れることに努力をしている。

また、給食センターで使用する食材を安定的に供給頂くためには、供給体制の整備が必要なことから、安定的供給に向けた体制づくりを、他

機関のご協力を頂き検討していきたい。

問 食材の納入は、学校給食会、地元納入業者、生産者からの直接納入等、それぞれの納入品目。また、それぞれの納入割合は。

教育課長 学校給食会からの主な納入品目については、乳製品・米・パン類・加工品等である。地元納入業者では、肉類・きこの類・練り製品等である。生産者からは、大木町健康づくり公社を通じ、野菜を購入している。

問 輸入農産物の残留農薬のチェック体制、また、食材サンプルの保管措置、事故等が発生した時の原因究明及び給食調理員の健康管理体制は。

教育課長 とりわけ野菜は、国内産を購入することとしているが、品薄等によりやむ

を得ず輸入農産物を購入することもあるが、その際も、地元納入業者よりの購入であり、税関にての検査済み農産物として安全が保証されているものと考えている。

納入先別割合

納入先	納入金額	納入割合	野菜のみ	野菜割合
学校給食会	45,474,450円	69.6%	2,043kg	7.15%
地元納入業者	18,580,703円	28.5%	18,050kg	62.7%
生産者 (大木町健康づくり公社)	1,217,607円	1.9%	8,693kg	30.2%

給食調理員の健康管理については、毎月2回検便検査を実施するとともに、ノロウイルス対策として冬季期間月1回の検査を加えて実施。また、検査において陽性の結果が出た場合については、検査機関より速やかに電話連絡を受けることとなっており、該当者については業務従事の停止をすることとしている。